

新連載

漢方が胃を切った人を救う②

# 大建中湯

〔ダイケンチュウウトウ〕



徳島大学 外科学講師

高須 千絵

同准教授 森根 裕二 同講師 吉川 幸造  
同教授 島田 光生

## 大建中湯とは

大建中湯の「中」は、体の中心部の胃腸を表します。腸管の運動を改善する漢方薬で、日本で一番多く使われています。

## 成分

- ①人参：滋養・強壯作用
  - ②山椒：発汗作用、胃腸の働きの改善
  - ③乾姜：胃腸の働きの改善、冷えや腹痛の緩和
  - ④膠飴：麦芽糖の一種
- 大建中湯は、(胃腸を温めながら正常な胃腸機能に建て直す漢方薬)です。

## 適応(体質)

虚証(虚弱)、寒証(冷え) 慢性的な下痢、冷えて症状が悪化し、お腹がガスで張るなどの症状がある人にお勧めです。

## 特徴

①作用機序が証明されている 薬理作用が解明され、有用性を確かめる臨床研究が行われています(例：腸管運動亢進作用、腸管血流増加作用など)。

②安全性が高い 副作用の頻度は非常に低く、主な副作用は悪心や下痢など消化器症状と軽度の肝機能障害など。

③「中庸」作用 行き過ぎを抑え、減退を亢進させるといふ儒教の概念に合う効果があります。また腸の蠕動亢進(下痢)にも蠕動低下(腹部膨満)にも改善効果を示します。

## 処方事例

### 病院での処方

1日6包(15g/日)を毎食前に服用します。症状に合わせて

て1日3包への減量も可能です。

【対象疾患】便秘・腹部膨満感・消化器の手術後の腸閉塞(イレウス)の治療や予防。味に特徴があるため、お湯で溶かしたり、炭酸水で服用すると飲みやすくなります。

## 当科での処方例

すべての疾患(胃がんなどの消化器がん)のクリニカルパス(入院診療計画書：入院の際、患者さんに渡し全医療内容の流れを説明。スタッフ全員が治療計画を共有)に大建中湯を組み込み、手術前から大建中湯(6包/日)を内服、術後1日目から10日目まで継続します。

## 胃切除後障害の改善

胃切除後障害は、胃切除後にさまざまな胃の機能が失われることにより生じます。胃が小さくなることや迷走神経切除や内分泌機能の低下による消化管の協調不全、再建法などが原因と考えられています。胃切除後の障害は次に挙げるように、短期のものや長期のものに分けられます。○印は大建中湯が有効な障害です。

【短期障害】○術後腸閉塞(麻痺性)、ダンピング症候群(食べ物が一気に腸管を落下することにより起こる症状)、○下痢(消化吸収不良、○ゲップ・おなら、少胃症状)

## 食道炎

また、胃がん術後の食事の回復をスムーズにし、入院期間の短縮に有用であることも報告されています。胃切除後の再入院の原因の第1位は腸閉塞であり(約50%)、大建中湯は再入院予防にも有効と考えられます。

【長期障害】○癒着性腸閉塞、貧血、骨障害、胆石症、逆流性

## 食道炎

私たちの研究チームは大建中湯が、バクテリアアルトランスロケーション(長期間消化管を使用しないことなどで、消化管内の細菌あるいは毒素が血流に入り込む状態)の予防に有効であり、腸内細菌叢の多様性を維持することを報告しています。

## 最後に

このように、大建中湯は効果や安全性が証明された漢方薬です。胃切除後の術後経過を良好にする、(生涯内服できる頼れる漢方薬)と考えられます。